

2. 附属図書館

本学附属図書館は、大学図書館基準、学術審議会・中央教育審議会の答申・報告、社会からの要請等を考慮し、今後の目標として、

- ① 情報の収集及び発信，管理，保存基地としての図書館
- ② 研究，教育，学習の場を提供する図書館
- ③ 社会の要請に応える開かれた図書館
- ④ ゆとりある図書館をあげている。

2.1 図書資料

2.1.1 蔵書冊数

(現状)

現在図書館管理の図書は約 74 万冊近くになっている。このうち開架図書は約 29 万冊，書庫内図書は約 35 万冊，研究室貸出図書は約 10 万冊である。利用者は開架・書庫内図書も自由に閲覧できる。

平成 17 年度・18 年度に，蔵書冊数はそれぞれ約 1 万冊増加している。毎年蔵書数が増大し少しずつ狭隘化が進んでおり，早急に対策を行う必要がある。

(評価)

文部科学省の学術情報基盤実態調査を基に本学と同規模大学の図書館の蔵書冊数を比較すると，蔵書冊数は全国レベルを 10 万冊程度上回っている。また，利用者は開架・書庫内図書も自由に閲覧でき，蔵書数の多さをさらに有効利用できている。

資料 2.1.1-1 附属図書館における蔵書数 (冊)

区 分 年 度	蔵書数		合計
	本館	分館	
平成 18 年度	618,557	120,194	738,751
平成 17 年度	611,963	116,874	728,837
平成 16 年度	604,825	113,492	718,317
全国平均	—	—	626,411

※「全国平均」は、「平成 17 年度学術情報基盤実態調査」による平成 16 年度の 2～4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.2 年間受入図書冊数

(現状)

学術情報基盤実態調査結果報告と比較すると，本学の年間受入図書冊数は全国平均をやや下回っている（資料 2.1.2-1 参照）。

本館においては，平成 18 年度は 17 年度より購入分は減少している。その中で，外部資金で購入した図書は増加している。分館においては，購入分は増加に転じており，特に，外部資金で購入した図書が大幅に増加している。

(評価)

年間受入図書数は，全国レベルに達していないものの，購入分については達している。

資料 2.1.2-1 年間受入図書冊数

(冊)

区 分 年 度	年間受入図書		うち購入分		うち外部資金分	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館
平成 18 年度	7,654	3,320	5,323	1,544	623	513
	10,974		6,867		1,136	
平成 17 年度	8,283	3,382	7,081	1,120	456	204
	11,665		8,201		660	
平成 16 年度	9,607	3,886	8,588	2,041	355	196
	13,493		10,629		551	
全国平均	11,653		5,864			

※「全国平均」は、「平成 17 年度学術情報基盤実態調査」による平成 16 年度の 2～4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.3 分野別図書収集状況

(現状)

資料 2.1.3-1 に示す分野別冊子数から、本館では、社会科学が半分以上を占め、分館では利用分野を反映して自然科学分野（中でも医学分野の専門書）が大半を占めている。分野ごとに偏りはあるものの、分野横断的な新書シリーズを継続購読することなどにより、他分野の図書の収集にも配慮している。

(評価)

本学の学部構成に見あった分野別収集冊数になっている。

資料 2.1.3-1 平成 18 年度分野別図書収集状況

(冊)

区 分	本館	分館	計	区 分	本館	分館	計
総 記	282	14	296	技 術	516	22	538
哲 学	298	52	350	産 業	374	11	385
歴 史	501	39	540	芸 術	263	29	292
社会科学	4,067	156	4,223	言 語	443	36	479
自然科学	619	2,937	3,556	文 学	291	24	315
				合 計	7,654	3,320	10,974

2.1.4 年間受入雑誌数

(現状)

本館においては、多くの雑誌の購入は教員研究費等によりまかなわれており、研究費の減額により、教員の申し出によるタイトルの中止が増加している。(資料 2.1.4-1 参照)

分館においては、受入雑誌は、少し減少しているものの、購入分はほとんど変わっていない。

また、学術情報基盤実態調査結果報告と比較すると、購入分は、概ね平均値である。

平成 18 年度の受入雑誌の増加は、本館における寄贈受入雑誌の算出方法の見直しに伴うものである。

(評価)

購入雑誌タイトル数については、全国レベルに達している。

資料 2.1.4-1 平成 18 年度 年間受入雑誌数

(タイトル数)

区 分 年 度	本 館		分 館		合 計	
	受入雑誌	うち購入分	受入雑誌	うち購入分	受入雑誌	うち購入分
平成 18 年度	1,852	961	920	606	2,772	1,567
平成 17 年度	1,056	1,001	940	609	1,996	1,610
平成 16 年度	1,151	1,097	982	649	2,133	1,746
全国平均					3,310	1,342

※「全国平均」は、「平成 17 年度学術情報基盤実態調査」による平成 16 年度の 2~4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.5 年間図書資料購入費

(現状)

本館・分館ともに、図書・雑誌購入費が減少している。図書購入費は減少しているが、時代の趨勢を反映して電子ジャーナル経費は増加している。

(評価)

図書資料費を安定かつ継続的な確保のために他大学を調査したうえで早急に対応する必要がある。

資料 2.1.5-1 年間図書資料購入費

(千円)

区 分	年 度	本 館			分 館		
		H16	H17	H18	H16	H17	H18
図書購入費	図書館	11,788	11,252	9,071	13,844	9,698	7,723
	学部	21,352	17,553	16,920	6,177	7,366	7,814
新聞・雑誌費	図書館	3,389	2,565	1,929	29,489	31,838	31,403
	学部	43,703	34,458	31,922	23,991	23,748	21,721
電子ジャーナル	図書館	10,608	13,931	13,931	0	2,532	4,942
	学部	0	0	4,867	0	492	1,583
合計	図書館	25,785	27,748	24,931	43,333	44,068	44,068
	学部	65,055	52,011	53,709	30,168	31,606	31,118

2.2 利用者サービス

2.2.1 開館日・開館時間

(現状)

本館・分館とも、年末年始を除く年間を通して開館している（資料 2.2.1-1, 2 参照）。本館では平成 12 年度から開館時間を延長し、平日は 22 時まで、休業期、土曜、日曜並びに祝日も 19 時まで利用できるようにしている。

また、分館では 24 時間開館を実施している。

(評価)

本館・分館ともに開館日、開館時間は高く評価できる。

資料 2.2.1-1 開館時間

期 間	本 館	医学分館
月～金	9:00～22:00	9:00～20:00
月～金（休業期間）	9:00～19:00	9:00～20:00
土・日・祝日	10:00～19:00	10:00～17:00
年末年始(12/28～1/4)	休館	休館

資料 2.2.1-2 開館日数・開館時間数

年 度	区分	H16	H17	H18
年間開館総日数	本館	355	356	357
	分館	357	357	357
土曜開館日数	本館	51	50	49
	分館	51	50	49
休日開館日数	本館	65	65	65
	分館	65	65	65
土曜開館総時間数	本館	459	450	441
	分館	357	350	343
休日開館総時間数	本館	585	585	585
	分館	455	455	455
休日時間外開館時間数を除く 時間外開館総時間数	本館	1,509	1,500	1,500
	分館	1,080	1,076	1,072
1日あたりの時間外開館時間数 (平 日)	本館	5	5	5
	分館	3	3	3
1日あたりの時間外開館時間数 (土・日、祝)	本館	9	9	9
	分館	7	7	7

2.2.2 閲覧サービス体制

(現状)

本館 4 名、分館 3 名で閲覧サービスと相互貸借業務を担当し、常時 2 名を閲覧カウンターに配置する体制をとっている。また、夜間開館時には、常時 2 名の非常勤職員を配置するなど閲覧サービスの

充実に努めている。ただし、高度化する図書館サービスに対応するためには、増員も必要である。

なお、分館の常勤職員が平成 18 年度に 1 名増加しているが、これは、分館における蔵書点検作業の試行に伴い、配置を一時的に増加させたものである。

(評価)

現状の体制の中では、十分評価できる。

資料 2.2.2-1 閲覧サービス担当職員数の推移

(人)

区分 年度	常勤職員		非常勤職員		派遣職員		合計		時間外職員(※)	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
18	1	2	2	1	1	1	4	4	2	2
17	1	1	2	1	1	1	4	3	2	2
16	2	2	2	1	0	0	4	3	2	2

※ 時間外職員は体制人数

2.2.3 利用対象者数

(現状)

本館では、一般利用登録者については、漸減の傾向があるが、他の利用者についてはほとんど変動がない(資料 2.2.3-1 参照)。資料 2.2.4-1 に示すように一般利用者の入館者数自体は増加していることを踏まえると、利用者登録の手続きが不要な館内閲覧のみの利用者が増加していると推定される。

分館では、平成 16 年度以降の一般利用者へのサービス拡大や、学内広報誌における広報の効果を反映して、一般利用の登録者は少しずつ増えている。なお、本館に比べ一般利用者の登録者数が極端に少ないのは、地理的要因や、駐車料金の負担が一因と考えられる。

(評価)

本館の一般利用者の登録者数が漸減傾向にあることに注意し、今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.3-1 利用登録者数

(人)

区分 年度	学生数		院生数		教職員数		一般利用者数		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
18	4,441	833	545	160	694	1,164	991	87	6,671	2,244
17	4,422	838	502	191	648	1,152	1,200	40	6,772	2,221
16	4,419	846	521	375	650	1,152	1,460	24	7,050	2,397

2.2.4 入館者数

(現状)

本館の最近の入館者数は、年間 350,000~370,000 人という数字で推移している。これは同規模の国立大学と比較しても平均を上回る人数である。また、一般利用者の入館者数は、毎年 11,000~14,000 人となっているが、これは、全国立大学の平均を大きく上回る数値である。

分館では学外者の入館数にはばらつきがあるものの、一定規模の入館者数を数えている。

また、これまでは毎月第4木曜日を館内整理日として閉館していたため、閉館日には時間外登録をしている利用者しか入館できなかったが、平成17年度途中より、利用者の利便性向上のため、館内整理による閉館日をなくした。このことが、入館者数の増加につながっているものと考えられる。

(評価)

本館の入館者数が漸減傾向にあることに注意し、今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.4-1 入館者数 (人)

区分 年度	入館者数		一般利用者数	
	本館	分館	本館	分館
平成18年度	347,361	103,067	14,262	1,118
平成17年度	360,062	98,700	11,668	1,235
平成16年度	371,793	95,438	12,416	869

※一般利用者数は入館者数の内数

2.2.5 資料の貸出

(現状)

資料の貸出条件は、本館、分館ともに、利用者及び資料の区分によって設定している。本館では、一般貸出のほかに、特別貸出や卒業論文用貸出などの貸出種別を設けて、学生への利便性の向上を図っている。また、期限内に返却しなかった延滞者には当日のみ貸出禁止のペナルティを課しているが、近年、本館において、長期に渡る延滞者が増加しているため、返却期限を遵守させるための工夫が必要である。

分館では、書庫内図書もなく卒論提出者のための特別枠も設けていない。また、貸出条件表には載せていないが、延滞日数に応じてペナルティを課している。これは、代替本又は複本が少ないため貸出回転率をよくするためである。

(評価)

従来からの経緯をみても、資料の貸出しにおける冊数及び期間とも問題ないが、本館のペナルティについては見直す必要がある。

資料 2.2.5-1 本館貸出条件表(利用規程第 8 条, 第 10 条関係)

区 分	貸出冊数及び貸出期間			
	法人教員	本学大学院学生 本学名誉教授 非常勤講師・医師 研究員等	法人役員及び職員(教員 及び非常勤講師並びに 医師を除く。) 本学学部学生等 一般利用者	本学学生であっ て卒業論文等を 提出する者
開架図書 (雑誌を含む)	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 1か月間
書庫内図書	200冊以内	20冊以内 1か月間		
備考：上記の期間にかかわらず，雑誌の貸出期間は原則として1週間とする。				

資料 2.2.5-2 分館貸出条件表(利用規程第 8 条, 第 10 条関係)

区 分	貸出冊数			貸出期間
	法人役員及び職員並 びに本学大学院学生 研究員等	本学学部学 生等	本学名誉教授 一般利用者	
図 書	10冊以内	6冊以内	6冊以内	2週間
製本雑誌 未製本一般雑誌	5冊以内			1週間
未製本学術雑誌	5冊以内			2日間
合 計 貸出冊数	10冊以内	6冊以内	6冊以内	

2.2.6 貸出人数・貸出冊数

(現状)

本館の貸出人数は，学生については，やや減少傾向にあり，教職員及び一般利用者については，多少増減がある。本館の貸出冊数は，学生，教職員とも減少しているが，一般利用者については多少増減がある。

分館では，学生及び教職員については，貸出人数・貸出冊数ともに多少増減があるが，一般利用者については，着実に増加している。これは，平成 17 年度から，一般利用者コーナーに加え，雑誌を除く一般図書も学内者と同様に借りられるようになったことが一因と考えられる。

(評価)

本館の学生については，貸出人数，貸出冊数ともに減少傾向にあることに注意し，今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.6-1 貸出人数

(人)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者数		本館 合計	分館 合計	合計
	本館	分館	本館	分館	本館	分館			
18	20,261	5,841	2,043	843	3,011	198	25,315	6,882	32,197
17	21,968	6,264	2,192	903	3,574	146	27,734	7,313	35,047
16	22,693	5,538	2,089	971	3,509	39	28,291	6,548	34,839

資料 2.2.6-2 貸出冊数

(冊)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者数		本館 合計	分館 合計	合計
	本館	分館	本館	分館	本館	分館			
18	39,250	11,900	6,771	1,926	8,925	543	54,946	14,369	69,315
17	41,828	12,703	7,086	1,845	9,879	370	58,793	14,918	73,711
16	44,198	11,455	8,492	1,915	9,706	95	62,396	13,465	75,861

2.2.7 研究室貸出状況

(現状)

本館では、研究費で購入した図書館資料を各教員の研究室に貸出している。研究室貸出冊数は、全蔵書冊数の約13%にあたる約80,000冊程度である。現在は原則としてコンピュータにより貸出をしているが、目録データ化されていない古い資料については、過去に借用券による貸出を行ってきた。

借用券による貸出冊数は、全研究室貸出冊数の23%程度を占めているため、コンピュータ管理の対策を講じる必要がある。ただし、現在は借用券による貸出手続きを行っていないため、借用券による貸出冊数は、定年退職などのため、今後減少していくことが予想される。

分館の研究室貸出図書は全体の20%程度であるが、これは経過年数等による廃棄処分対象から除外されるため、今後も割合が少しずつ増えていくことが予想される。

このため、遡及入力作業の一環として借用券貸出をコンピュータ貸出に切替える計画を策定した。

(評価)

借用券による貸出を減らす努力は評価できる。

資料 2.2.7-1 研究室貸出状況

(人)

区 分	本 館	分 館	計
平成18年度	77,352	23,855	101,207
平成17年度	80,322	22,234	102,556
平成16年度	85,305	21,285	106,590

2.2.8 予約サービス体制

(現状)

本館では、利用者の申込み方法として、従来からのカウンターでの申込みがあるが、平成17年度から利用者自身により、マイライブラリや所蔵検索画面上からも申込みができるようになった(研究室貸出図書を除く)。このため、18年度については、予約件数が増加している。

分館では、以前より利用者自身が予約システムを使うようになっており、予約システムは学内に周知されてはいるが、その使用件数は年々減少傾向にある。これは、特定の利用者の予約件数が減少したことによるものである。

常に予約が殺到する資料の追加購入については、図書資料購入費の充実方策の中で検討する必要がある。

(評価)

予約サービス体制が整備され、総予約件数の増加は、十分評価できる。

資料 2.2.8-1 総予約件数 (件)

年 度	本館	分館	計
平成18年度	537	82	619
平成17年度	394	280	674
平成16年度	354	385	739

2.2.9 参考調査

(現状)

本館では参考調査件数については、1年間で約7,000件程度、1日あたり約20件程度の問い合わせ等がある。また、学内利用者に比べ、一般利用者からの調査依頼件数が相対的に多い。最近では、新入生図書館ガイダンスの実施回数の増加に伴い、学生に対する利用指導件数が増加している。

分館では、所蔵調査が殆どで、調査依頼件数は少ない。最近では図書館ホームページのOPACを確認して、一般利用者からの電話による問い合わせも多い。また、分館で利用できる医学系のデータベースを目的に来館し、利用指導を受ける一般利用者も増加傾向にある。

(評価)

大学図書館のサービスが学外にも浸透したことは評価できる。

資料 2.2.9-1 利用者別参考調査件数 (件)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者数		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
18	2,570	833	3,135	240	1,319	251	7,024	1,324
17	2,228	637	3,342	633	1,334	315	6,904	1,585
16	1,954	521	2,930	518	2,190	258	7,074	1,297

区分 年度	文献所蔵調査		事項調査		利用指導		その他		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
18	2,784	436	1,071	26	2,155	690	1,015	172	7,025	1,324
17	2,787	1,014	1,068	33	2,136	490	913	48	6,904	1,585
16	3,056	830	724	26	1,810	402	1,484	39	7,074	1,297

2.2.10 情報検索

(現状)

図書館内で主要新聞の記事データベースおよび判例の検索が行える環境を整えている。本館では、新聞記事及び判例の検索データベースについて主要なものを Web, CD-ROM, DVD で提供しており、分館では主要な医学、看護、薬学系のデータベースを WEB 上で検索できる環境を整えている。

(評価)

本館、分館とも、利用者の要求を満たす検索データベースは整備されており評価できる。

資料 2.2.10-1 情報検索データベース

本館	日経 4 誌全文記事検索 (CD-ROM 版, DVD 版)
	戦後 50 年朝日記事見出し (CD-ROM 版)
	明治・大正・昭和読売新聞 (CD-ROM 版)
	朝日新聞全文記事データベース 聞蔵 (WEB 版)
	主要法律雑誌 (DVD 版)
	判例検索 (CD-ROM 版)
	理科年表プレミアム (WEB 版)
分館	CINAHL (WEB 版)
	Cochrane (WEB 版)
	MEDLINE (WEB 版)
	医中誌 (WEB 版)
	Journal Citation Report (WEB 版)

2.2.11 電子ジャーナル

(現状)

約 4,800 タイトルの電子ジャーナルを購読しており、主要な電子ジャーナルパッケージは学内の研究室等から全文のダウンロードが可能となっている。

平成 18 年度において年間のダウンロード回数は約 10 万件である。特に Elsevier 社の利用回数が全体の 65% を占めている。出版社毎に増減はあるが全体としては毎年、利用回数が増加している。

また、費用対効果のため、e-only 化等の見直しを進めたが、引き続き電子ジャーナルの見直しが必要である。

(評価)

各分野の代表的な電子ジャーナルは購読しており、購読タイトル数としては水準を満たしている

ため評価できる。

資料 2.2.11-1 各出版社別電子ジャーナル 平成 18 年度ダウンロード件数

ジャーナル	収録タイトル	タイトル数等	16 年度	17 年度	18 年度
Springer	全分野	約 1500	4,533	4,689	5,213
Wiley	全分野	約 520	4,904	5,527	6,680
Elsevier	全分野	約 2100	65,820	69,641	65,253
IEEE CSLSP	コンピュータ系	24	1,142	2,093	2,621
ACS	化学系	24	4,805	6,436	9,964
Nature	本誌 + 生物医学系	6	4,164	4,578	2,474
Blackwell	理工医学系	約 440 タイトル	5,582	4,818	6,819
Oxford	全分野	約 170 タイトル	契約なし	契約なし	3,529
合 計			90,950	97,782	102,553

2.2.12 他館利用制度

(現状)

大分県内の大学図書館間では学生証による相互利用が可能である。また、大分県立図書館との間で相互利用協定を結び、双方で文献複写や現物貸借ができるようにしている。一方、平成 15 年から横断検索を開始し、大分県立図書館と大分大学附属図書館の蔵書を同時に検索できるシステムを構築した。

平成 17 年度から、横断検索サービスに新たに 4 大学等が参加しているが、実際には大分県立図書館との相互貸借サービスに役立っている。また、本館から県立図書館への現物貸借依頼が約 84%を占め、本館が借用する傾向となっている。

分館では、平成 15 年度から横断検索に参加している。また、大学統合に伴い平成 17 年度より大分県立図書館との相互利用協定に参加したが、PR 不足の面もあり現在まで相互利用には至っていない。

(評価)

横断検索への参加館を増やす必要があるものの一定の評価はできる。

資料 2.2.12-1 横断検索参加館

平成 18 年度	大分大学, 大分大学 (医学分館), 大分県立図書館, 別府大学, 日本文理大学, 大分県立芸術文化短期大学, 大分工業高等専門学校
平成 17 年度	大分大学, 大分大学 (医学分館), 大分県立図書館, 別府大学, 日本文理大学, 大分県立芸術文化短期大学, 大分工業高等専門学校
平成 15・16 年度	大分大学, 大分大学 (医学分館), 大分県立図書館

資料 2. 2. 12-2 大分県立図書館との相互協力状況 (件)

内 訳	本 館		分 館	
	依頼	受付	依頼	受付
平成 18 年度	145	26	1	1
平成 17 年度	119	20	0	0
平成 16 年度	102	16	—	—

2. 2. 13 相互貸借利用状況

(現状)

資料 2. 2. 13-1 に示す相互貸借利用状況のとおり、全国平均に比べ文献複写、現物貸借ともに依頼件数は非常に多く、両者の受付件数については、ほぼ平均レベルである。

文献複写の依頼・受付件数は以前よりは減少傾向にあるが、これは電子ジャーナルの利用が増加しているためと考えられる。また、現物貸借の依頼・受付件数が増加傾向にあるのは、大分県立図書館との相互利用が活発になってきていることを反映したものである。

なお、文献複写料金等（私費）の時間外開館時における収納手続きについて、平成 20 年度実施に向けて検討を行っている。

(評価)

現物貸借の活発な点は、大いに評価できる。

資料 2. 2. 13-1 相互貸借利用状況 (件)

年 度	区 分	文献複写		現物貸借	
		依 頼	受 付	依 頼	受 付
平成 18 年度		5,997	3,023	417	299
平成 17 年度		6,183	3,734	213	221
平成 16 年度		7,245	4,130	191	198
全国平均 (2~4 学部の国立大学)		2,447	2,901	190	204

※「全国平均」は、「平成 17 年度学術情報基盤実態調査」による平成 16 年度の 2~4 学部の国立大学の実績である。

2. 2. 14 図書館の開放

(現状)

図書館の開放事業の一環として読み聞かせ会を月一回程度開催し(資料 2. 2. 14-1)、大学開放イベントに併せて館内において子供を対象とした催しや廃棄図書の無償配布等を実施している。

(評価)

図書館の取り組みとして読み聞かせ会を行い、本館所蔵の貴重資料展示や廃棄図書の無償配布等のイベントを企画するなど地域住民との連携に貢献していることは評価できる。

資料 2.2.14-1 読み聞かせ会

年 度	開催回数	児童	保護者	合計
平成 18 年度	10 回	83 名	53 名	136 名
平成 17 年度	8 回	68 名	47 名	115 名
平成 16 年度	7 回	92 名	65 名	157 名

資料 2.2.14-2 図書館のイベント

(人)

年 度	実施概要	来館者数
平成 18 年度	平成 18 年 11 月 5 日 (日) 10 時～16 時 1. 学生との遊びを交えたおはなし会 2. こども劇場 (人形劇, 紙芝居, 絵本読み聞かせ) 3. 一般・娯楽雑誌の無償配布	1,165
平成 17 年度	平成 17 年 11 月 6 日 (日) 10 時～16 時 1. 絵本展 ①荒井良二作品展, ②読み聞かせ会(11 時及び 14 時) 2. 廃棄図書の無償配布 3. 写真展 (学内の野鳥)	854
平成 16 年度	平成 16 年 11 月 7 日 (日) 10 時～16 時 1. 貴重書展 ①府内城絵図, ②石垣原合戦絵図, ③豊後国絵図外 2. 絵本展 ①ロシアの絵本, ②仕掛け絵本 3. 読み聞かせ会 4. 廃棄図書の無償配布	948